

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第89号

H30.10.12発行

Yukari Ishizawa

石澤ゆかり

アジア大会決勝、そして、
2年後の東京五輪も目指して。



陸上人生の最後の種目としての3000mSC

石澤 ゆかり

3000mSC

エディオン

Yukari Ishizawa

プロフィール | 石澤 ゆかり(いしざわ・ゆかり) / 身長:169cm / 体重:49kg / 1988年(昭和63年)4月16日生まれ
2007年(平成19年)茨城県立銚田第一高校・卒業→2011年(平成23年)茨城大・卒業→2011年(平成23年)エディオン・入社

主な成績 | ●2013年 / 中国女子駅伝(広島)駅伝3区①9分54秒[総合①] ●2014年 / 全日本実業団(山口)10000m①32分48秒29 ●2015年 / 織田記念(広島)5000m⑦16分13秒04、全日本実業団(岐阜)10000m⑧32分57秒59 ●2016年 / 織田記念(広島)5000m①15分47秒03 ●2017年 / 日本選手権(大阪)10000m⑬33分30秒74、全日本実業団⑧32分48秒69 ●2018年 / 織田記念(広島)5000m①15分41秒01、日本選手権(山口)3000mSC①9分53秒22、アジア大会(ジャカルタ)3000mSC⑧10分13秒53、全日本実業団(大阪)3000mSC②10分08秒49

自己ベスト | 3000mSC 9分52秒22 2018年 日本選手権
5000m 15分41秒01 2018年 織田記念
10000m 32分27秒22 2016年 ホクレンディスタンスチャレンジ第3戦(網走)



写真提供:共同通信社

これほど誇れる「初敗北」の舞台もないだろう。2018年8月27日、ジャカルタのブンカルノ競技場。アジア大会の女子3000m障害決勝で、石澤ゆかり(エディオン)は歯を食いしばり、8位でゴールを駆け抜けた。「自信を持ってスタートラインに立ったが、思ったより体が動かなかった。準備してきたものを発揮できなかったのはすごく悔しい」と涙をこらえた。ただ、競技転向から5カ月で通算4レース目。陸上界の常識や周囲の予測を大きく上回るスピードで、石澤は日の丸を背負って力走した。

ランナーとしては異色の遅咲きだ。茨城県出身で、中学時代はバスケットボール部に所属。レギュラーになれないまま終わり、銚田一高で心機一転、取り組んだのが陸上だった。主に800mで練習を重ねたが、全国舞台は遠かった。受験勉強に励み、国立の茨城大へ。絶対に競技を続けると決めていたわけではなく、見学を通じて「楽しそうな雰囲気にかかれた」と軽い気持ちで陸上部のドアをたたいたのだという。

ただ、学生時代も目立った成績は残せ

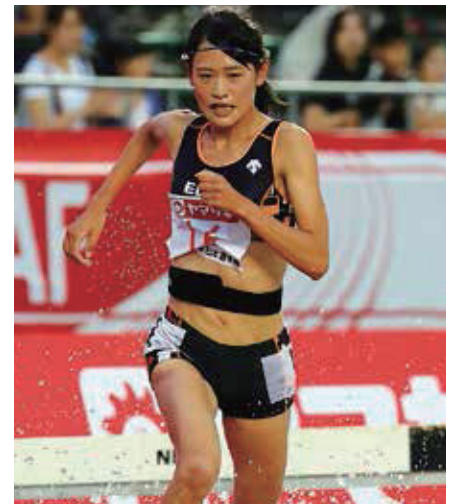
ず、4年秋の日本学生選手権で準決勝に進んだのが最高。「陸上は大学まで」と決意を固め、就職活動に励んだ。しかし、50社以上も受けた入社試験は、ことごとく不合格。「1社でも受かっていたら今の自分はない」と言うから、何かの運命だったのだろう。失意の中、知人を介してエディオンに誘われたことで、再び陸上人生がつながった。

入社後は徐々に距離を伸ばしながら頭角を現した。2年目の2012年に全日本実業団駅伝に初出場し、以後も全国都道府県対抗女子駅伝の広島県代表に定着。17年には10000mで念願の日本選手権出場を果たし、14位となった。

この時点で29歳。かつてないほど真剣に、自分の将来と向き合ったという。このまま長距離路線でいくのか、マラソン転向か、あるいは競技を引退するのか。「東京五輪に出たい」という思いを確認した時、頭に浮かんだのは、かつての指導者たちからも勧められていた3000m障害だった。チームスタッフからも「やるからにはトップを目指せ」と鼓舞され、「この種目に自分の生涯を懸けよ

う」と決意。駅伝シーズンを終えた今年3月、30歳を目前にして新たな競技への挑戦が始まった。

試練はいきなり訪れた。3月の障害練習中に、ハードルに足を取られて転倒。左側頭部を強打し、3日間の入院を余儀なくされた。医師からは「すぐに同じ衝撃を受ければ、脳に障害が残る可能性がある」と警告された。それでも「このまま終わるのは悔しい」。病院のベッドで闘志をかき立てた。



写真提供:中国新聞社

4月の記録会でデビューし、5月の中国実業団選手権は1人のレースで10分10秒54をマーク。初めて他の選手と競った6月の日本選手権は、9分53秒22で制覇。「自分の陸上人生にこんなことが起こるのか。うれしさよりも、正直びっくりしていて、実感が湧かない」と初々しく語った。派遣設定記録には一歩届かなかったが、日本陸連理事会の推薦でアジア大会の代表切符を手にした。

そのジャカルタの大舞台。午後7時を超えても蒸し暑さが残るトラックで、石澤はスタート直後から異変を感じていた。「気候も汗のかき方も日本とは全く違う」。スローペースの中で上位集団に食らいついたが、徐々に引き離されてペースダウン。10分13秒53のタイムは、自己記録から20秒以上も遅れた。北海道合宿などを通じて走り込みを重ねただけに、「脚も作れていたし、状態が上がっていた。すごく自信はあった」と無念さをにじませた。

一方、海外レースを通じて得たものも大きい。「接触が激しいイメージだった」という海外選手との位置取り争いやリズムを体感。国内とは違う位置に据えられた水ごうにも飛び込み、「この段階でいろいろな経験ができたのは、すごくありがたいこと」と前を向いた。

東京五輪に向け、「アジアで戦えないと五輪につながらない。国内、アジアで安定して結果が出せる選手になる」と言い切った。悔しい1敗を今後の成長にどう生かすか。シンデレラストーリーのクライマックスは、まだまだ先にある。 text by K

第102回 日本陸上競技選手権大会

を終えて



●日時：6月22日(金)～24日(日)
●場所：維新みらいふスタジアム(山口)

今年の夏のジャカルタ・アジア大会代表選考会を兼ねた日本選手権が6月22日～24日に、維新みらいふスタジアム(山口県)で開催された。石澤選手、山縣選手、高山選手をはじめ、広島出身の選手の活躍が光った大会であった。日本の頂点を目指し、アジア大会への切符を手にするため、選手たちの熱い闘いが繰り広げられた。



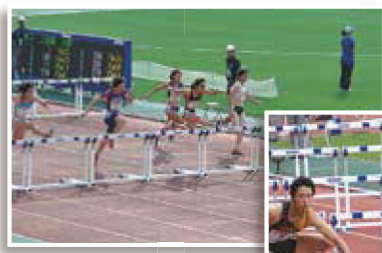
表彰を行った浜崎日本陸連理事(広島陸協常務理事)と恩師、マネージャーと記念撮影をする木村文子選手

優勝インタビューを受ける山縣亮太選手

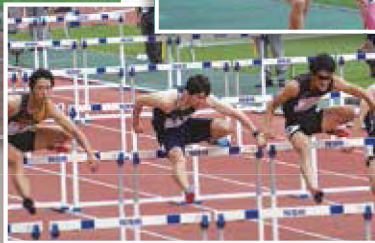
日本記録誕生のレース：男子110mH決勝の表彰

女子800m決勝に臨む直前の北村夢選手

女子800m予選：上田万葵選手→



↑女子100mH決勝：木村文子選手



男子110mH予選：高山峻野選手→

YAMAGUCHI 2018

第102回 日本陸上競技選手権大会

JAAP athletics Championships

兼 ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手権選考競技会

選手名	所属	出身	種目	記録	登録陸協
山縣 亮太	セイコー	修道高	100m	1位 10秒05	東京
高山 峻野	ゼンリン	広島工大高	110mH	2位 13秒45	神奈川
福部 真子	日本建設工業	広島皆実高	100mH	7位 13秒56	東京
森 友佳	ニコニコのり	一ツ橋中	やり投	2位 59m18	大阪
敷本 愛	新潟アルビレックスRC	日影館高	円盤投	8位 47m52	新潟
渡邊 茜	丸和運輸機関	砂谷中	ハンマー投	2位 62m21	福岡
鏑坂 哲哉	旭化成	世羅高	10000m	5位 28分41秒15	宮崎
真野 友博	福岡大学	山陽高	走高跳	7位 2m15	広島
北村 夢	エディオン		800m	1位 2分02秒54	広島
木村 文子	エディオン	砥園北高	100mH	3位 13秒21	広島
石澤ゆかり	エディオン		3000mSC	1位 9分53秒22	広島
神田 菜摘	福岡大学	市立呉高	走高跳	7位 1m74	広島

第72回 広島県陸上競技選手権大会を終えて

●日時：6月30日(土)・7月1日(日) ●場所：コカ・コーラボラーツジャパン広島スタジアム

1日目は朝から強い雨。9時の役員打ち合わせの段階で天気予報を基に午前中は雨が強くなると判断し、女子棒高跳を午後の男子と一緒にを行うことを決めました。10時30分には一時雨も弱まりましたが、大雨警報が発令されました。12時招集完了、13時30分男女同時の競技開始。2m00cmから開始し、男子の優勝が決定したのが19時10分。選手は大変疲れたことと思います。男子は3年ぶり6回目の優勝をねらう萩原 翔選手(广大樟柳クラブ)と初優勝をねらう下瀬 翔貴選手(鶴学園クラブ)のジャンプオフ(1位決定戦)になりました。待ち時間が長く、双方の疲労度も増し、最終的には4m90で下瀬選手が初優勝を遂げました。遅くまでご協力いただきました補助員、役員の皆様へ感謝いたします。

今回女子100m、女子100mHのプレゼンターに木村文子選手(エディオン)にご協力いただきました。昨年の世界選手権出場、今年度の日本選手権の活躍などの憧れの選手からの表彰は非常に喜ばれました。表彰をされた選手には新たなエネルギーとなったことでしょうか。できれば、今後もこのような表彰の形ができればと思います。

広島陸上競技協会 競技運営委員長 田川 司



雨の中競技を行う



激戦&長期戦となった男子棒高跳



プレゼンターを務めて下さった青少年健全育成協力企業の朝日医療専門学校広島校



プレゼンターを務めて下さった木村文子選手

52nd M.ODA 第52回 織田幹雄記念国際陸上競技大会

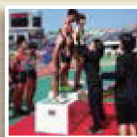
日本グランプリシリーズ プレミア 広島大会

兼 ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手権選考競技会
●日時：4月28日(土)14:00～/4月29日(土)9:40～ ●場所：広島広域公園陸上競技場



2018年4月28日(土)～29日(日)広島広域公園陸上競技場(エディオンスタジアム広島)で、第52回織田幹雄記念国際陸上競技大会が行われた。この大会は、広島県出身で日本人初の五輪金メダリスト(三段跳)、織田幹雄氏の栄誉を称えて創設された。日本グランプリシリーズのグランプリプレミア「広島大会」であり、2018年はジャカルタで行われるアジア競技大会の日本代表選手選考を兼ねて開催された。

グランプリ種目は男子が100m、5000m、110mハードル、棒高跳、走幅跳、三段跳、やり投の7種目。女子が100m、5000m、100mハードル、棒高跳、やり投の5種目だった。山縣選手、福部選手をはじめ、多くの選手の活躍がみられた。毎年恒例の握手会が行われ、木村文子選手(エディオン)、福部真子選手(日本建設工業)などによる握手会が行われた。今年は、陸女企画として、プレゼンターに女性を起用。また、陸女チームも走った3月に行われたRCCひろろ女子駅伝競走大会の上位入賞者に招待券を配付、その招待券を持参した来場者の中から希望により、特別観覧席へご案内などスペシャルな企画をした。

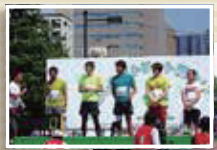


HIROSHIMA STREET TRACK AND FIELD PLUS 2018 ひろしまフラワーフェスティバル ひろしまストリート陸上プラス

●日時：5月4日(木・祝)13:30～16:45
●場所：平和記念公園前の平和大通り特設トラック

今年も平和大通りの特設会場でフラワーフェスティバル2日目の5月4日「ひろしまストリートプラス」が行われた。

今年は、50m走、棒高跳に加え、東京五輪の新種目スポーツクライミングが初登場。広島出身の2選手が躍動感あふれる技を披露した。当日は、高さ6メートルの特設タワーを置き、中野稔選手(クライムセンター CERO)と錦織美里選手(県立広島大学2年)が実際に登ってみせた。多くの観客に各競技の魅力を紹介し、子どもたちは50m走、棒高跳やボルタリング体験で汗を流した。



年代別レポート

小体連

今年の「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会は34回目。広島県の県ナンバーは「34」。感慨深い大会になった。まずは、7月8日の広島県予選会。前日の「平成30年7月豪雨」にて初めての中止。競技会の1位の選手でなく、各地区予選会の1位の記録の選手が全国大会へ出場することに。そのため、7月14日に男女の走高跳が抽選となり、これで全選手が決定した。

今年の酷暑で選手達のコンディションが気になったが、広島に元気を届けるため選手達は素晴らしいパフォーマンスを出してくれた。

女子80mHの藤原愛心さん(東広島TFC)が予選で13.18(-0.4)広島県小学生県新。女子6年100mの坂井実夢さん(びんごWAC)が13.36(+1.1)で3位入賞、男子5年100mの小田原功太郎(にゃんじャスポーツ)が13.41(+0.6)の6位入賞。また多くの選手も自己ベストを更新し、成長を感じる大会になった。

また今年から交流大会を全面に出すため、他県とバッチ交換やキッズテカスロン、フレンドシップパーティー(トップ選手のデモンストラーションと交流)もあり、子供達が陸上競技の楽しさを持ち続けるようなイベントもあった。

最後になりましたが、チーム広島をサポートして頂いた、各チーム・団体の指導者の皆様、保護者の皆様、そして日頃から何事もなく陸上競技が続けられる幸せに感謝致します。

指導・普及委員会/副委員長
広島陸上競技協会 花守 慎太郎



中体連

今年度の上半期のトラック&フィールドを振り返りたい。

今年度は「平成30年7月豪雨」や猛暑が続く、そのために県大会の日程変更等で選手に多くの負担をかけた。多くの困難にもかかわらず県新記録が生まれるなど多くの選手が健闘してくれた。

第52回中国中学校陸上競技選手権大会(広島)では、災害等に遭いながらも女子が総合優勝を果たし、男女総合では第2位となった。そして、中学生からなる補助員



の動きも素晴らしいかった。第45回全日本中学校陸上競技選手権大会では、大会2日目男子の活躍が目立った。棒高跳で山本大貴(3)(近大東広島)の4m20cmで第3位をかき取り同日、四種競技では、原田響(3)(安佐)が2714点【15.22/-0.3-13m67-1m62-52.50】の自己新記録で第4位入賞。砲丸投では、中村一達(3)(安佐)が14m17cmで第6位入賞。砲丸投は3大会連続の決勝進出となった。大会3日目は女子の活躍が目立った。女子100mでは、脇坂里桜(3)(府中緑ヶ丘)が12.85/-3.7で第8位入賞。女子4x100mは府中緑ヶ丘【1走:三永珠綺(2)2走:山本千菜(3)3走:荒木那菜(3)4走:脇坂里桜(3)】が予選49.39(広島県新記録)準決勝48.88(広島県新記録)決勝49.96と懸命の走りを見せ第8位入賞した。そして、女子100mHでは、浅木都紀実(3)(口田)が予選14.10/+0.7、準決勝13.89/+1.7(広島県新記録)、決勝14.10/+2.1と準決勝まではトップ記録と圧巻の走りを見せ、決勝では第3位と健闘してくれた。



今回の全中では前年度の3種目3名の入賞者を上回り、6種目9名の入賞者を排出する大会となり、好成績を収めることとなった。今後も中学生の活躍に期待する。

強化委員会 ジュニア強化部長
広島陸上競技協会 渡邊 悦久

高体連

全国高校総体での広島県選手の活躍

今年の全国高校総体(インターハイ)は、三重県伊勢市で開催された。中国ブロック6枠中5枠を占めた男子4x400mリレーをはじめ、広島県からは20校115名と昨年の116名に続き、多くの選手が参加した。

女子ハンマー投では、中新美月(西条農業3年)が54m13と従来の大会記録を大きく上回り2位に入賞。県総体、中国総体での悔しさを見事に晴らした。また、6位には50m66で村上愛結(安芸3年)が入り、同種目で2名の入賞となった。

同日に行われた女子800mでは、昨年の団体少年女子B 800mチャンピオンの上田万葵(舟2年)が3年生に果敢に挑んで5位入賞。次は舞台を世界に移し、10月にアルゼンチンで行われる第3回ユースオリンピック競技大会に日本代表として出場が決まっている。2020年東京オリンピックに向けた活躍を期待したい。

残念ながら今年の全国高校総体での入賞は2種目3名に留まった。これから秋のシーズンに向けてより一層の努力を重ね、来年に向けてのスタートラインをしっかりと高めていってほしい。

広島県高体連陸上競技部 事務局長
五日市高校 野崎 秀和

学生連盟

広島県学連の上半期の振り返り

広島県学連の加盟校の中で中四国または全国規模の大会で全国大会を含む、各大会で成績を残した選手が多く見られた。

5月11~13日で高知県の春野で開催された第72回中国四国学生陸上競技対抗選手権大会の大きな注目は、女子七種競技において優勝した広島大学の安田夏生選手である。記録は5258点でこれは大会新記録・中国四国学生新記録で、2位以下に1000点近い差をつけての優勝。広島大学はこの他にも女子棒高跳で安藤はな選手が優勝、男子400mHで尾崎雄祐選手が優勝、藤島廉選手が2位、男子10000mWで小武海泰士選手が優勝、森麟太郎選手が2位とワンツーフィニッシュ、3位には近大中国四国の村上寛佳選手で、男子10000mWでは広島県勢の活躍が特に見られた。また、広島経済大学も男子1500mで大竹康平選手、男子3000mSCで古谷龍斗選手がそれぞれ優勝しており、中長距離種目の強さを示した。今大会の総合得点を見てみると、ここでは紹介しきれないほどの、広島県選手が入賞したことを総合の部の結果が裏付けている。

続いて6月15~17日にかけて開催された2018日本学生陸上競技個人選手権大会では、広島大学、広島経済大学の2校から計12人の選手が出場。広島大学からは男子800mで梶原周平選手が、女子400mで木戸恵理選手がそれぞれ準決勝に進んでいる。広島経済大学は大竹選手が男子1500mで決勝に進み、3位という結果を残した。濱松海斗選手も男子800mで決勝に進み6位入賞、男子3000mSCで古谷選手が全体で6位入賞という結果であった。

最後に6月29~7月1日に沖縄にて開催された第71回西日本学生陸上競技選手権大会では、男子1500mにおいてここでも広島経済大学の菅選手が1位で優勝を飾った。また、男子走幅跳においても広島大学の藤原駿也選手が優勝しており、他にも入賞を果たした選手もいる。今回は台風の影響により日程が大幅に変更され、タイムレース方式に変更、3日目の競技が全て中止になるなど、イレギュラーな大会となったが、そんな悪条件の中でのしっかりと成績を残している選手もいることが伺える。

多くの選手が中四国だけでなく西日本規模または全国規模で結果を残している。これら結果から中四国の学生陸上を広島が引っ張って行くぞという良い心意気を感じる。そういう心意気を持つことにより、競技力向上は勿論のこと、中国四国学生陸上のレベルも徐々に上がっていくのではないだろうか。

中国四国学生陸上競技連盟広島県支部 幹事長
広島修道大学陸上競技部 吉見 健太

マスターズ連盟

念願の実現

今年度から広島陸協に加盟させていただきました広島マスターズ陸上競技連盟です。よろしく願い致します。

我がマスターズ連盟は、熱いランナーたちが集まって1982年10月に「広島マスターズ陸上」として結成した。メンバーは10代~100歳代の老若男女で、マスターズ陸上で初めて挑戦される方々も、大会参加の回を重ね、記録を目標に大切に挑戦する方も、夢を共有できる仲間と気楽に得意とする競技に出場するもよし、新しい種目に挑戦して記録志向もよし、健康のためでもよし、自分の体力と人生観に従って「陸上競技」を楽しんでいる。若年層としては、学連を卒業すれば入会できる。競技への参加を募っているところである。

皆さん記録会をはじめ、県選手権、中国選手権大会、全日本選手権、世界選手権大会、中国駅伝、全国駅伝、等への出場を予定している。すでに6月の広島県選手権で熱戦が繰り広げられて日本新が1県新が20出ている。7月の中国マスターズ選手権では、猛暑の中で、日本新2大会新22が出ている。

9月は日本マスターズ陸上競技選手権大会が鳥取で行われる。詳細は広島マスターズ陸上で検索してほしい。

広島マスターズ陸上競技連盟 広報
磯村 公三

TOPICS

審判講習会

ATHLETE FRIENDLY
競技者に優しく

SPECTATOR FRIENDLY
観客に魅せる

OFFICIAL FRIENDLY
全ての関係者(競技役員等)に優しく

ここ数年、日本陸連では、競技会を運営する際に上記の3つのフレンドリーを提唱しています。私は立場上、全国各地の競技会運営をグラウンドレベルで見る機会が多くありますが、どの地に行っても、広島県の競技役員レベルの高さを再認識して帰ってきます。さすが長年にわたり、織田記念大会や全国都道府県対抗男子駅伝を大きなトラブルもなく成功を収めている県だとあらためて感心してしまいます。それは、審判講習会の参加人数やそこに臨まれる方々の姿勢に象徴されています。今年度も、広島西部地区の審判講習会を開催したところ、4月当初の非常に慌ただしい時期にもかかわらず、300名以上の方が参加されました。また、各都市陸協に出向き、講習会を開催させていただいておりますが、その熱心な姿には、頭が下がります。毎年のように、細かいルール改正はありますが、特にここ数年は、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、「1000分の1着差あり」「不正スタート1回失格」に象徴されるように、国際ルールへの統一化が多く見られます。今後もこの傾向は続くことが予想されます。県内競技役員の方は、こちらが細かく説明するまでもなく、ルールに精通されており、どの競技会でもスムーズに運営ができています。いっぽうで、全国的に、少子高齢化にともなう人員不足という課題に直面しています。本陸協においても2014年度には1000人を超えていた登録者数が、2017年度は965名と年々減少傾向にあります。陸上競技は、1人でも競技者が競技を行う場合、そこには多くの審判が必要になってくるという特徴があります。ぜひ、今後も多くの方々に競技会運営に携わっていただくと同時に、少しでも興味のある方を誘っていただきたいと思います。これからは記録の公平性、信頼性の担保の為に、ルールをしっかりと把握され、「競技者がまた来たい!」「観客がまた見に来よう!」「競技役員が生き生きと参加できる!」競技会運営と一緒に作り上げていきましょう。

広島陸上競技協会 審判部長 新宅 昭二



↑(左)ルール改正について説明する新宅審判部長(右)新宅審判部長の講習に耳を傾けメモをとるたくさんの受講者

青少年の夢を応援します!

(順不同)

青少年健全育成協力企業

- 株式会社ツルハグループ
ドラッグ&ファーマシー西日本
- 株式会社サタケ
- 朝日医療専門学校広島校
- 広島駅弁当株式会社
- 中国電力株式会社
- 有限会社道後山高原サービス
- 株式会社中電工
- 広島ガス株式会社
- 広島電鉄株式会社

- 広島総合警備保障株式会社
- 株式会社広島銀行
- 株式会社もじ銀行
- 大塚製薬株式会社広島支店
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社 BTM

- 学校法人石田学園
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社社体体育社
- 株式会社ニシヒロ
- COCOKALA GROUP
- T&T WAM サポート株式会社

- T&T タウンファーマ株式会社
- T&T ネットワーク株式会社

特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス